

# 大安寺報

第55号



## 名句・名言に学ぶ

平原綾香『Jupiter』(作詞:吉元由美)

心のしじまに 耳を澄まして  
私を呼んだなら どこへでも行くわ  
あなたのその涙 私のものに

当寺にはご本尊さまであるお釈迦さま(釈迦牟尼仏)をはじめ、境内各所に沢山の仏さまをおまつりしています。その中でも、本堂左奥の二体の観音さま(観世音菩薩)は田名部海辺三十三観音霊場の札所のうち、九番・十番とされ、お檀家さま以外の方からも広く信仰を集めています。

観音さまといえば、私にはこんな経験があります。あれは大本山永平寺での修行時代のこと。永平寺の一番奥にある法堂と呼ばれる建物には観音さまがご本尊さまとして祀られており、その前の廻廊を通る際は必ず合掌低頭(一礼)をする決まりでした。ある夜、当時所属していた寮舎(部署)の役寮(役員)をつとめていたお坊さんから

曹洞宗 圓祥山大安寺  
住職:長岡 俊應  
副住職:長岡 俊成  
〒039-4401  
青森県むつ市大畑町  
本町 80 番地  
Tel 0175-34-2926  
Fax 0175-34-6426  
E-mail info@daianji.jp  
http://www.daianji.jp

こんな質問をされたのです。「あなたは、法堂の前を通る際、何に對して合掌低頭しているのですか?」と。私は、何でそんな当たり前のことを聞くのだろうと訝しく思いました。そして「観世音菩薩さまに對してです」とおぼろげと答えました。するとそのお坊さんはこう言って私を諭されたのです。「それは半分しか正しくない。半分は観音さま、そして残り半分はあなた自身の仏性に對してですよ」と。私はその時はとしました。禅のおしえはただ単に仏さまに帰依するだけではなく、自らの仏性(仏になる可能性)を自覚し、修行を通して自らが仏を行っていくものです。私はそれをすっかり忘れて漫然と修行をしていた。そして、それをそのお坊さんに見抜かれたのだと思い、自身を恥じたのです。

観音さまは悩み苦しむ衆生(生きとし生けるもの)のそばに来て、三十三の姿に化身したうえ、共済してくださる仏さまです。また、観音さまは慈悲の心を体現しているとされます。慈悲の「慈」は「与樂」(衆生に樂を与えたいという心)、「悲」は「抜苦」(人々の苦を抜きたいと願う心)を意味しています。

ある日、平原綾香さんは、生まれながらに障害を持って生まれた子どもを懸命に育てたアメリカのお母さんのドキュメンタリー番組を見たそうです。

そして、その愛の大きさと深さに感銘を受け、冒頭で紹介した歌詞の原型が思い浮かんだといいます。冒頭で紹介した歌詞からは、静まりかえった心の状態で、衆生の苦しみに耳を澄ませ、自身を呼ぶ声がすれば行つてその相手と寄り添い、その心と同化し、その相手の苦しみを抜き、「大丈夫ですよ」と安心させてくれる、優しい観音さまのお姿が伝わってくるようです。

お彼岸は、亡き方々に思いを馳せる期間であるのと同時に、自らの仏性と向き合い、そして養う期間でもあります。私たちも、観音さまのような存在を目指し、たゆみなく学びと実践を続けていきたいものです。(副住職)



大安寺の宗旨:曹洞宗 両本山:福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖:道元禪師 太祖:瑩山禪師  
ご本尊:釈迦牟尼仏 本尊唱名:南無釈迦牟尼仏(なむしゃかむにぶつ)

## 仏事

### Q&A 第三十八回

Q、彼岸会の由来と意味は?

A、彼岸会は平安時代に朝廷で行われたのがもとで、徐々に世間に広まった行事です。中日を中心としたこの一週間は、善行を行い善い功德を積む期間とされ、お寺参りやお墓参りを行います。「彼岸」という言葉は、「彼方の岸」の略であり、煩悩の世界である「此岸」から、修行によって海を渡りきり、輪廻を超えた涅槃の境地に入ることを意味します。彼岸期間中は「六波羅蜜」(布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧)という徳目に勤しみます。「波羅蜜」は「パーラミター」の音写で、「修行の完成」を意味します。お寺へのお参りの中で、少しでも心を安らかにし、この実践を目指していただきたいものです。彼岸期間中はお寺やお墓にお参りし、なるべく慎み深く過ごし、お寺で法要や坐禅会、写経会などの仏道修行実践の機会があれば積極的に参加しましょう。

## キャンドルライト yoga

キャンドルの灯りに包まれながらのヨーガ&坐禅



- 日時 十月四日(金) 午後七時~九時
- ※午後六時四十五分受付開始
- 内容
- ヨーガ(休憩&坐禅)
- 場所 当寺本堂
- ヨーガ指導 中島敬子先生
- 定員 三十名
- 参加費 五百円
- 備考 動きやすい服装で。
- 事前予約 0175-34-6426 (Fax) info@daianji.jp
- 080-2042-8337(電話)まで
- お名前をご連絡ください。

### 【お墓参りについて】

○カラス等が散らかしますので、お墓にお供えになった供物・ゴミについては、全てお持ち帰りくださるようお願いいたします。(缶・瓶飲料含む)  
○お花は供えたままでも結構ですが、供える際は、透明な包み紙を取るようお願いいたします。

曹洞宗テレホン法話  
曹洞宗宗務庁運営  
0120-508-740  
携帯の方は 03-3454-5410

曹洞宗テレホン法話  
「心の電話」  
曹洞宗東北管区教化センター運営  
022-218-4444



### 各種講座のご案内 (令和元年九月~十二月)

- ◆「月例写経・写仏会」(予約不要)  
日時 九月二十九日(日)、十月二十七日(日)、十一月二十四日(日)、十二月二十二日(日) 午後一時~三時半  
内容 ミニ法話&写経・写仏&法座茶話会 参加自由  
場所 中広間 参加費 五百円 備考 椅子席
- ◆「暁天坐禅会」(予約不要)  
日時 九月二十二日(日)、十月八日(日)、二十日(日)、十一月三日(日)、十七日(日)、十二月一日(日)、十五日(日)  
午前七時~八時半 ※坐禅指導希望の方は午前六時半集合  
内容 禅語紹介&坐禅&法座(茶話会) 参加自由  
場所 本堂 参加費 無料 備考 椅子坐禅可能  
服装 動きやすい服装で。(スカート・ジーンズ不可)
- ◆「夜坐」(予約不要)  
日時 十一月九日(土)、十二月七日(土)  
午後七時半~九時 ※坐禅指導希望の方は午後七時集合  
内容 坐禅×二回&法座(茶話会) 参加自由  
場所 本堂 参加費 無料 備考 椅子坐禅可能  
服装 動きやすい服装で。(スカート・ジーンズ不可)

### 行事カレンダー (令和元年九月~十二月)

- 九月二十三日(秋分の日)
- 秋季彼岸会法要(本堂)午前十一時~
- ※同日午後二時より、「永代供養墓苑合同供養祭」※荒天時は本堂
- 十一月八日(日)
- 成道会法要(本堂)午前十一時~
- ※お釈迦さまの成道にちなみ、報恩感謝する法要です。

### 編集後記

暑くもなく寒くもない秋は仏道修行の好時節。夜の坐禅会(夜坐)やキャンドルライト寺 yoga などの特別行事も予定しておりますので、是非お気軽にご参加ください。(副住職)

次号のご案内 令和元年十二月下旬に発行予定です。